

教育総務課

教育レビューを開催しました！



◎教育レビューのようす

平成29年4月21日(金)、中央公民館にて教育委員会事務局職員を対象として「教育レビュー」を開催しました。この「教育レビュー」は教育委員会事務局各課の事業について担当職員が説明を行い、各課の事業・取組に対して相互理解を図ることを目的としています。今年度は転入職員・新規採用職員を中心に、約30名の職員が参加し、教育委員会事務局の業務内容・施策方針等についての理解を深めました。

冒頭に堀内教育長による訓話があり、その後、教育総務課、子どもサポートセンター、学校教育課、子ども未来課、生涯学習課、文化財課の順に主な施策・事業内容に関する説明がなされました。今年度から新たに設置された「子ども未来課」では、学校の規模・配置及び教育内容に関する「学校適正化推進事業」を進めるとともに、幼稚園・保育所の在り方について検討を行う「幼保一体化推進事業」にも取り組むというところもあり、職員一同、一丸となって業務に取り組む決意を新たにしました。



学校教育課では、子どもたちが夢や志をもち、社会を生き抜くために基盤となる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体と安全」の3つの観点をバランスよく育むための「学校力づくり」を支援しています。また、左の図に示すように、目標達成に向け、地域ぐるみで子どもたちを育成する「地域コミュニティの確立」、小中学校の「9年間を見通した教育の推進」、「将来を展望できる確かな学力の育成」をトライアングルとして取組を推進しています。

本年度は、「ふるさと学習の推進」を大きな柱とし、五條の歴史や文化を盛り込んだ心算と学習教材「五條かるた」や「五條学」の完成を目指します。また、小中一貫教育のモデル校区指定研究を実施し、英語教育に力点を置いた小中学校教員による相互乗り入れ授業を一部の学校で行います。さらに、子どもたちの理科に関する興味関心を高めることを目的とした第2回「サイエンス・スクール」を、本年度も奈良教育大学理数教育センターと連携のもと、8月に開催します。科学の不思議を体験できる「おもしろ理科実験講座」を多数用意し、2日間に分けて開講します。



◎昨年度の「サイエンス・スクール」より

今回は9月の発行予定で、五條小学校、阿太小学校、五條中学校、五條幼稚園を紹介いたします。

五條市教育広報

夢志のひろば

MU-SHI

編集・発行 五條市教育委員会 ☎0747-22-8751 〒637-0083 五條市下之町 21 番地

もくじ

- 1面 賀名生分校魅力化推進事業について
- 2面 学校紹介
- 3面 学校紹介
- 4面 教育委員会から

賀名生分校では来年度入試から全国募集を実施します

五條市の農業の現状

全国に比べ農業を営んでいる人の年齢層は若いのが、農業従事者は全国とほぼ同じ率で減少し、それに伴って耕作放棄地の増が目立っています。

	平成22年	平成27年の五條の状況	H27の全国の状況
仕事として農業を営んでいる人	2,185人	1,862人 (△323人 △14.8%)	△14.52%
この内、65歳以上の人の割合	55.15%	58.16%	64.55%
耕作放棄地の面積	241ha	276ha (+35ha +14.5%)	+6.84%

(5年毎に実施される農業センサスの結果を基に作成しており、増減は5年間の変化を示している。)

賀名生分校の目指すもの

地元農家の協力により実習を中心に実践的な農業を学び、農業の担い手としてその成果を地域に返すことのできる生徒を育てる教育を行います。



五條市は、柿生産高日本一(市町村比較)を誇る全国有数の農業生産地域ですが、生業として携わっている農業従事者の減少や高齢化は、全国の他の地域と同様、大きな課題となっています。

昭和25年、当時の賀名生村が地域農業の担い手育成を目的の一つとして設置した賀名生分校は、昭和34年に「西吉野村立」に、平成17年に「五條市立」と変遷してきましたが、昨今の少子化や子育て世代の転出などにより入学者が減少し、当初の目的を果たすことが難しくなってきました。

そこで、五條市教育委員会では、平成30年度の入学者選抜から全国いずれの地域からも出願できる『全国募集』を実施することとし、今年度は寄宿舎を整備するとともに学習内容や方法を充実させ、県内外の中学校へ広報活動を展開することを予定しています。

学習については、専門教科(農業)に力を注ぎ、その中心を担う実習の多くを地元の農園で指導していただき、実



賀名生分校全景

習を重視する学校、将来の職業につながる学習を大切にすることを目指します。また、3・4年生では平日に就労する日を設定するなど、地元と連携しながら実践的な農業生産技術などを学べる学校とします。

卒業後は農業法人などに就職し地域農業の担い手の一人として活躍するとともに、本人の意欲や努力に応じて農業経営者として独立し、本市で定住することのできる仕組みを、民間・行政が連携してつくり、元氣なまちづくりの一翼を担える学校に育てていきたいと考えています。

